『おおきな木（通級指導教室）』だより

豊中市立大池小学校　Ｒ３（2021）７・７　No.２

元気になる“ことば”ってなんでしょう

～子どもと大人のコミュニケーション～

「ほめて育てる」はよく言われている子育ての秘訣ですが、日常生活でそんなにうまくはいきません。今日一日で「早くしなさい」「やめなさい」と、何度言ったか…。

一日の終わりに反省しきり、というのが現実ですね。

では、どんな言葉で子どもをほめたり叱ったりすればいいのでしょうか。

初級：具体的なことばで　肯定的なことばで

早くしなさい⇒「いつまでするの？」「〇分には終わってね」

やめなさい⇒「～してね。」

よく例にあげられるのは「走ってはいけません」⇒「歩きなさい」ですが、「走る→歩く」という代わりの行動が出ないこともよくあります。

そんなときは「～し過ぎ」に言い換えます。

「騒ぐな！うるさい！」⇒「騒ぎ過ぎ。」「うるさ過ぎ。」

ゼロにしろとは言わないが限度超えてるんじゃない、という
ニュアンスで、子どもにとって聞き入れやすいようです。

中級：相手の気持ちになって。その言葉を自分が言われたら聞く気になるか

「ごめんなさいは？！」「ありがとうは？！」

⇒「ごめんなさい、だよね～」「ありがとう、だよね～」

心で「ごめんなさい」と思ってない子に口だけ言わせても反発心を生むだけです。

こんなときは「ごめんなさい、だよね」と大人が代わりに言ってあげて、子どもが心の中で「そうやな…」と思うことができたら「ごめんなさい」を言えなくても良しとしたいです。

「何やってるんですか！」「何考えてるんですか！」

⇒「なぜそんなことしたの？」「よく考えずにやったんじゃないの？」

子どもは何も考えず行動しないものです。大人から見て非常識と思うことも「わけ」があることが多いです（そのわけが正しいかどうかは別として）。

子どもなりの“つもり”があったのに、あたまからいきなり叱ると「決めつけた」と子どもたちは“逆ギレ”したりします。

“大人はずるい”と言い始める３～４年生によくあることです。

上級：子どもの人格を尊重する

「今度～したら捨てますよ」⇒「散らかしっぱなしで捨てたいくらいじゃまになる」

子どもは「捨てる」が脅しであることがわかっています。

学校で「態度が悪いと遠足は行きません」と先生が言ったとき、「そんなこと言って行くくせに…」と思う子がいました。子どもたちは黙っていますが、脅しになるような言い方は大人への信用をなくすことにつながるかもしれません。

「あなたの将来を思って言っている」「親（先生）に向かってその言い方は何ですか」

⇒「わたしは（お母さんは、先生は）・・・と思うな」

高学年、思春期になると価値観が大人と対立することが増えます。

子どもが「いい。好き」と思っていることを大人の価値観で否定すると強く反発します＝反抗期

この反抗期を経て子どもは「自立」していくので反抗期は大切なのですが、ピリピリする時期です。この時期をうまく乗り越えるためには「子どもの人格を尊重すること」ではないかと考えます。

あなたは～が好き。したいと思っている。それは知っている。でも私（大人）は・・と思っている

思春期の子どもはなかなか「はい、わかりました」とは言わないものです。自分の価値観に自信があり、“聴き入れたら負け！”とか思っているからです。大人より友達の意見が大事な時期です。

そんなとき、「おかあさんは・・と思っている」という言葉で大人の価値観を知れば、どこかで折り合えるかきっかけになります。

大人がどれほど“正しい”ことを言っても、それが子どもの心に届かなければむなしい言葉になってしまいます。

自分たちの子どもの頃も思い出しながら、子どもと大人のいい関係をつくっていきましょう。

＜この『おおきな木（通級指導教室)』だよりは大池小学校 HP にも掲載しています＞

７月１２日から個人懇談が始まります。日常のこと、「おおきな木」のことで気になられることやご質問がありましたら、まず懇談で担任の先生とお話をしてください。

（豊中市立大池小学校　　通級指導教室担当：藤木桂子）